

2014年12月17日

**粉体工学会 『ナノ粒子と細胞の相互作用に関するワークショップ』
終了報告書**

世話人代表 新戸浩幸

●活動期間

2011年度～2014年度（4年間）

●副世話人

市川秀喜（神戸学院大学 薬学部）

野村俊之（大阪府立大学 工学研究科）

川上亘作（物質・材料研究機構 生体材料センター）

●概要

『粒子と細胞の相互作用』に焦点を当て、「粒子の物理的・化学的性質が、細胞への結合・接着、取り込み、毒性にどのような影響を与えるのか」、この影響は、動物細胞、植物細胞、微生物の間でどんな違いがあるのか」を中心課題とし、粒子材料種横断的かつ細胞種横断的に討論した。本課題は、学際的要素が強く、当学会のみならず関連する学協会でのこの課題に取り組んでいる研究者にもご参加いただき、多様な視点から face-to-face で活発に議論し交流した。

●主な活動

2011年5月23日 合同キックオフミーティング（東京）

2011年9月8日 シンポジウム「細胞と粒子の相互作用は、コロイド・界面科学でどこまで理解できるのか?」、コロイドおよび界面化学討論会（京都大学）

2011年10月19日 シンポジウム「表面特性制御に基づいた粒子の医薬品、化粧品、食品への展開」、粉体工学会秋期研究発表会（大阪）

2014年9月16日 講演会（福岡大学）

●今後の予定

本ワークショップで構築した人的ネットワークを最大限に活用し、『ソフト粒子・界面研究会（仮）』として研究会設立申請を来年度以降に行う。